

第35回

冷戦とその終結

監修・講師
中嶋 毅

学習のねらい

第二次世界大戦後、アメリカ合衆国を中心とする資本主義陣営（西側）と、ソ連を中心とする社会主義陣営（東側）の二つの勢力が、世界的規模で緊張状態を生み出した。この対立構造は「冷たい戦争（冷戦）」と呼ばれ、1989年に米ソ両国首脳が冷戦終結を宣言するまで続いた。冷戦終結ののち、旧社会主義諸国は資本主義へと体制を転換し、世界は大きな変容を遂げた。冷戦はどのように生じ、どのような対立が繰り広げられたのだろうか。冷戦の歴史を振り返りながら、冷戦後の世界についても考える。

＜冷戦体制の形成と展開＞

マーシャル・プラン ベルリンの壁 キューバ危機

＜冷戦の終結とソ連の崩壊＞

ゴルバチョフ ペレストロイカ マルタ会談

＜冷戦後の世界＞

グローバリゼーション 世界貿易機関（WTO）

■■■ 冷戦体制の形成と展開 ■■■

アメリカ合衆国は、1947年に**マーシャル・プラン**を発表し、ソ連の影響力が東欧に浸透することを防ごうとした。アメリカを中心とする西側陣営は1949年に北大西洋条約機構（NATO）を結成し、軍事的にも結束した。これに対してソ連は、東欧諸国との軍事的・経済的結合を強化して東側陣営を形成した。さらに米ソ両国は軍拡競争を展開し、互いに大量の核兵器を保有するようになった。

第二次世界大戦後に分割占領されたドイツと朝鮮半島では、東西両陣営に分かれた分断国家が登場し、両陣営の対立の前線となった。東ドイツでは1961年に西ベルリンを包囲する壁が建設され、**ベルリンの壁**は冷戦を象徴する存在となった。1962年の**キューバ危機**では米ソ両国の軍事衝突が懸念されたが、両国首脳の交渉によって衝突の危機は回避された。

■■■ 冷戦の終結とソ連の崩壊 ■■■

米ソ両国はキューバ危機ののち、核兵器の抑止機能に依存しつつも、軍事力の均衡をとりながら段階的に軍備を縮小する方向に向かった。しかし1979年にソ連がアフガニスタンに侵攻すると、西側諸国は強く反発し、再び東西緊張が高まった。東西両陣営の対立は、双方に大きな経済的負担を強いることになった。とくに産業構造の転換に立ち遅れたソ連では、経済は深刻なまでに停滞した。

1985年にソ連共産党書記長に就任した**ゴルバチョフ**は、体制の根本的改革を目指し、その一環として対外関係の改善を進めた。1989年の東欧革命とベルリンの壁開放ののち、アメリカ合衆国のブッシュ大統領とゴルバチョフは同年末、マルタ会談で冷戦の終結を宣言した。一方、**ペレストロイカ**の進展と冷戦の終結はソ連国家の統合力を急速に喪失させ、ソ連は1991年末に解体した。

■■■ 冷戦後の世界 ■■■

かつてソ連を構成した諸国や東ヨーロッパの旧社会主義諸国は、資本主義へと体制を転換し、人々の生活は大きく変化した。また、インターネットの急速な発展によって情報が国境を越えて共有されるようになり、資金や技術、労働力の移動が地球規模に展開される**グローバル化**が進んだ。社会主義体制を維持する中国やベトナムも、開放政策を採用して経済成長を遂げた。世界経済においては市場原理のもとで自由競争が追求され、1995年には**世界貿易機関(WTO)**が発足して自由貿易化が促進された。

グローバル化の進展は、世界経済を活性化させた一方で、貧困問題や債務問題を抱える国々が直面する課題をさらに深刻化させる側面ももっていた。貧困問題の深刻化や経済的格差の拡大は、新たな地域紛争や世界各地でのテロ活動の拡大の要因ともなっている。

考えてみよう 調べてみよう

- 西側陣営と東側陣営との対立関係を、地図の上で確認しよう。
- 冷戦はどのように展開され、どのような状況の中で終結に至ったのか、調べてみよう。
- 冷戦後の世界はどのような特徴を示しているのか、身近な事例をもとに考えてみよう。